

福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等

委員名	福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等	本日の会の感想
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫教育を行うことで、系統的な指導を行い、学力の確実な定着を図るとともに、人格の形成においても見通した指導を行うことで、心豊かな人材を育成したい。また、系統的な指導を行うことで、中1ギャップなどの問題を解消していくことを期待する。 ○小中一貫教育は、系統的な指導が行いやすくなることから、地域学習を一層充実し、低学年から取り組み、郷土を愛する心を育て、地域に貢献しようとする意識を醸成したい。 ○小中一貫型小・中学校か義務教育学校かは、今後さらに検討を重ねる必要があると感じる。 ○小中一貫型小・中学校となるとしても、教育効果を高める上で、同じ敷地に校舎があり、行き来が容易であることが望まれる。 ○学校を再編する必要があるとすると、どのように学区を定めていくのか、また、理解を得ていくのが心配される。 	第2回御欠席
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○福生市の中学校区は、小学校学区と上手く仕切られていて、大変メリットになることだと、改めて感じた。他の市区などは、小学校卒業後は、指定の公立中学校への進学だとしても、住むエリアによって、進路が複数にまたがるのが普通である。本市は、通学の不便な一面はあるものの、その区分けがしっかりしているので、小中学校間の引継ぎ、連携しやすい。今後の小中一貫校設置へスムーズに移行しやすい条件が整っている。 ○小学校の場合、特に低学年では、通学に非常に時間が掛かることが家庭や児童の負担になったり、学区域が分かりづらかったりなどの課題はある。 ○一方、本校では、小学校での縦割り班活動などから、高学年になるとリーダー的な意識が芽生え主体性や下の学年への面倒見の良さなどが、伸びてきている。 ○そのことを踏まえ、小中一貫校のメリットとして、9年間の連続性と縦割り組織の導入により、より活発な活動が期待できるものと考え。現行の中学校区の小中連携教育をさらに推進し、今後に繋げる意識を高めていくことが大事だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンによる小中一貫型と義務教育学校の違いやその特性やメリット、デメリットが理解できた。 ○他地域での先行事例の紹介や現状の成果と課題を把握するのは、とてもこの会の運営に役立つものだと感じた。 ○福生の特色と実情を加味して、今後の在り方を検討するためにも、先行事例からの学びは大切にしたい。オンラインやビデオでもよいので、小中一貫校の校長先生や先生方の声を直接聞けるのもよいのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○学区を基とした、施設分離型の小中一貫型の小・中学校を目指すという方向でよいと思う。 ○小学生にとって中学校への入学は、新たなスタートの機会にもなる。中1ギャップの解消と共に、そうした機会も保障する小中一貫教育が目指せるとよいと思う。 ○中1ギャップの解消、学力向上、自己肯定感の向上につながる小中一貫教育ができるとよいと思う。そのための準備を着実に進めていくことが大切だと思う。 ○教職員に小中一貫校設置の必然性をもたせていくことが重要になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先行実践地区における成果と課題が紹介され、今後具体的に考えていくための手掛かりを得ることができた。 ○教職員の協働等に関する成果については、プレゼンとともに委員の方々の具体的事例により理解が深まった。 ○児童・生徒、教職員が成長し、保護者や地域との連携を一層図れる福生市の小中一貫教育を目指していければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の学区域にある3つの町会（加美・永田・長沢）は、PTA組織において地区委員会として位置付けられ、PTAと連携した子供会活動が活発に行われている。町会の各種イベントも、学校の校庭や体育館を使うことが多く、学校と町会との関係も良好である。小中一貫校の設置においても、地域の拠点として、学校を機能させていくことが重要である。 ○先日（7/20）、CS委員会主催の防災教室が本校体育館で行われた。災害時に学校が避難所になった時を想定し、簡易テントや段ボールベッドの設営を高学年児童が練習した。避難所では、小・中・高生など若者の活躍が期待される。今回の防災教室等も、今後、小中一貫校となれば、小・中学生と一緒に避難所設営の練習ができる。このように、PTAやCS委員会の各種イベントが小中学生合同で行われることによって、地域を愛し、地域で活躍できる若者の育成につながることを期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫校先行実践地区の調査結果が大変参考になった。中でも課題に着目し、解決に向けた工夫を考えていきたい。 ○各委員から活発な意見がだされ、協議が深まった。ただし、委員長から発言の目安（一人2分など）が示されたときは、発言時間を守っていききたいものである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 【小中一貫校において特別支援教育の視点から期待できること】 ○特別支援学校や特別支援学級の生活単元学習等で毎年同じ活動内容を繰り返し行っている事がよく見られる。ねらいを学年ごとに変えているとは言うものの活動内容は全く一緒であり学年間の系統性が全く見られない現状がある。また、小学校中学校間の連携が無く今まで学んできたことが生かされていない現状がある。これらの課題を小中一貫になれば解決できると考える。特別支援学級も小学校1年から中3までの系統的で一貫した教育課程が構築でき、スパイラルに学びが積み上げられる場ができると期待する。 ○小中一貫校になれば、特別な支援が必要な児童が中学校に入った時に、スムーズな支援の引継ぎができ、支援が途切れることなく一貫して行われることが期待できる。 ○中学校までに身に付けておくべき力を、小学校段階で明確に分かり意識して指導することができるのと同時に中学校の教員と連携していけるのではないかと考える。 ○中学校にいる学力に課題がある生徒について、小学校段階でのつまづきに対して、小学校の教員が学習支援に入ることもできるのではないかと考える。 	○小中一貫校のメリットを最大限に生かした学校づくりを様々な視点から考えていかなければならないと思いました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な教育課題の解決に向け、多様な教育施策が展開されているが、福生市における課題をみたときに、その解決には保護者・地域の力が欠かせないと思う。そのことを踏まえると、現在全校がコミュニティ・スクールとなっていることは必然であり、今後小中一貫教育を推進するための小中一貫校の設置は有効な手だてになることが期待できる。 ○現在コミュニティ・スクールとしての活動を通して、地域の方々との協力関係・信頼関係は着実に結ばれていっているが、小・中学校の教職員の信頼関係はまだまだ深いとは言えないのが現状である。そこで、市主催の教育研究会や各校区の小中連携事業等を通して、相互の関わりを増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○懸案事項等について様々な立場から意見交流できたことがよかった。 ○一方、「小中一貫教育」という教育の中身の話と、学校の統廃合という行政施策が混同すると、話が進めにくいように感じた。

福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等

委員名	福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等	本日の会の感想
委員	<p>【福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設分離型の小中一貫教育が現実的であると考えたとき、希望・展望と課題となるであろうところを、中学校区ごとに具体的な児童・生徒・家庭・地域をイメージしながら話ができたら、それぞれがなんとなくもっている「在り方」をある程度の形にして共有できるのではないかと思います。 ○現在、すでに取り組んでいるものについても、一貫教育に繋げていく教育活動としてのバージョンアップを図ることにもなるのではないかと。 ○検討委員会として設定されている時間にそのような話し合いはできないか。同じ学区関係者で別の時間を設定してそれぞれに話し合ったものをもちより検討委員会で伝え合う中で、福生市としての方向性を決めていくのか。検討委員会での論点をつかみきれず、意見が出せないため、主体的・積極的に関わっていないように思い、反省しきりである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本来学校が担うべき児童・生徒の教育活動を進めていくにあたり、その児童・生徒を取り巻く環境（多くは家庭）の違いや変化、支援を必要とする状況が共通理解できた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○他市において、主幹教諭、副校長のときに小中一貫教育に取り組んだ。研修会などを通して、小中学校教職員全体の「同じ地域の子供を共に育てている」という一体感が確実に醸成されました。一人一人の児童・生徒を多くの教員が継続的に丁寧に見ていくことに、プラスはあってもマイナスはないという思いはある。 ○小中一貫教育に関する諸会議の時間確保については、対面式とリモートを組み合わせるなどの工夫が大切だと思う。会議以外の場面でも、教職員同士が自然に学校間を行き来したり、連絡を取り合ったりできる関係性を築いていくことが大切なのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員の皆様の御意見を伺い、私も福生独自の一貫校の在り方について、考えを深めていかなければならないと感じた。
委員	<p>前回と重複する部分もありますが、ご容赦ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やはり福生ならではの貫性ある教育の姿を模索していきたい。第2回会議でのお話で、福生市では、小学校6年生が市立中学に進学する際、皆同じ中学校に進学するように学区割がなされており、小中で貫性ある教育活動を行う際に良い条件であると感じた。 ○貫性ある教育活動として、15歳（義務教育修了時）に求められる資質・能力を9年間で段階的に培っていくことが重要であると思う。中学校の教員として強く思うところは、教科指導はもちろんだが、いわゆる非認知能力、あるいはキャリア教育における基礎的・汎用的能力といわれるものを、9年間を通してどのように育ていくかを小中の教員で具体化し共通実践したいと思う。 ○貫性ある教育活動を行うことの意義、目的を教員が理解し一人一人が主体的に取り組めるようにすることが必要だと思う。教員は小中が連携することの意義と成果は理解しているが、多くの時間をこのことに割くことには慎重になると思う。すでに多忙であり、「目の前の子ども達の指導で手一杯なのに・・・」という思いがある。ライフ・ワークバランスも考慮した持続可能な取組にしていく必要がある。 ○地域社会と一体となった教育活動が展開できるように、いわゆるハコモノについての検討をする際は、地域社会の拠点にもなり得る機能をもたせることを基本的なコンセプトの一つとして検討していただければと思う。例えば、地域図書館的な機能、シニアの方々の集会的な機能を併設させるなどして、学校としてのゾーン、共有のゾーン、地域活動のゾーンなどから成る施設を作り、いつでも交流的な活動ができるようにするなどである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を代表される方々の視野の広さと思いの深さに感銘を受けることが多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の会の中では、以前に校長の研修会もあり、いわゆる施設一体型である義務教育学校が実現するならば、数々の成果が得られ素晴らしいと思った。特にこの場合でも、三中学区は、三中を中心に田園通り沿いに、3つの小中学校がおおよそ等間隔に並ぶといった小中一貫教育の推進には、環境面でも有利な立地条件が揃っていると、思った。 ○小中一貫教育の具体的な実現のためには、小中の児童会と生徒会の連携した活動は、すぐにでも始められ可能と思っている。まず、小中一貫の活動をできることから取り組んで行くことで、小中の教員の交流が進み充実させられるのではないかと考えている。 ○今後そのために、三中学区の3人の校長会を9月初旬に開き、また、これにCS委員長の3人の方が加わった6人会を9月の中旬に開くことが、日時等含めてすでに決定している。初めての会ですが、この会の忌憚のない話し合いを通して、3中学区の小中一貫教育の在り方を話し合う第一歩とし、今後の小中の教育課程の編成にまで活かしていければと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫校の成果と課題がよく分かった。ありがとうございます。
委員	<p>【ポジティブな思いや考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅広く経験値の異なる子供たちによる縦割り教育での相乗効果 ○9年間の自由な割付け。6年+3年が正解か？その代わり、受験生はどうする？一度軌道修正したい子どもはどうする？ ○小学生の少人数算数とかを中学生が見てあげられないか？教える難しさや覚えるコツなどに気付けるのではないかと？ ○地元の文化を守るためのクラブ活動などできないか？例えば、CS委員が顧問。中学生主体だが、小学生も保護者同伴で参加可能。町会活動を学校に寄せられないか。その他、公民館の手芸ワークショップを家庭科部で開催できないか、等。 ○小学生、中学生とその保護者、教職員、地域の方々、がそれぞれの関係の潤滑剤となってそれぞれの関係性を活性化したい。 ○大人の目が常にある学校なら、門を大きく開くことができないか？ <p>【心配なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周囲の保護者に小中一貫校と聞いて思うことは？と質問したときに、ポジティブな意見よりネガティブな意見が多かった。意見の規模は大小あった。それも当たり前だと感じた。目の前環境が変わったらどうする？と聞かれているようなものだから。いつかどこかで新しいシステムが導入されることとなる。そのときに保護者の不安を置き去りにしない体制を今後とも維持してほしいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員長からの福生市の教育環境についての他の地域と比較した際の感想は非常に新鮮であった。自分の子供たちに用意された教育環境が恵まれていることを客観的に把握できたことはとても刺激となった。同時にその環境に関わる皆さまに改めて感謝の気持ちしかない。 ○また、会に参加させていただき、とても楽しかった。出席者全員で肩を組んで前進しているように感じる。学校経営者としてご意見されている校長先生方の側面を拝見できたことも、福生市の教育に関わる方々のそれぞれのお立場、目線での御意見がうかがえたことも勉強になった。

福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等

委員名	福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等	本日の会の感想
委員	<p>○学力向上は児童生徒と学校の長年の努力から生まれるもので、小中一貫校では学力向上に過度の期待感を持たせず、寧ろ不登校といじめの減少に繋がると良い。</p> <p>○他市の先行事例をホームページで確認しましたが、小中一貫校の導入は始まりに過ぎず、検証を繰り返しより良い形を創り出すように感じました。かといって導入まであまり期間をかけ過ぎても良くない。</p> <p>○先ず来年度から小中連携を本格的に具体化し、保護者・教職員が小中一貫校に対して関心、理解を深めるようにする。</p> <p>○検討委員会とは別に三つの中学校毎に小中学校の教職員代表で分科会を設け、テーマを絞り議論をしていただく。できればPTAが同席することも良い。</p> <p>○第二回委員会で説明いただいた資料3：福生市立学校の今後の展望についての私見法令上の位置付け：小中一貫校小・中学校施設形態による分類について：施設一体型が3校、施設分離型小学校が数校施設には近隣の地域会館などを入れられれば施設の複合化・集約化となる。</p>	<p>○町会長協議会を代表して地域における町会・自治会の存在について警鐘を鳴らしたが、現在連携している町会・自治会は引き続き地域の教育力として貢献して参りたい。</p> <p>○今までに小中一貫校に携わったことがある他の委員のコメント(7/22 資料2) “単なる理想論でなく本音で語り合える場になることで、もしかすると新しい小中一貫校像が生まれるかもしれない” 正に本委員会が求めていくことと賛同した。</p>
委員	<p>○文科省の調査結果で、導入された学校からの回答では、数々の成果が認められたとあります。費用面、人口減少等も考えますとこうした流れは当然のことに思える。</p> <p>○福生市で取り組むとすれば、9年間を生かす独自性が欲しい。特に、英語教育の更なる充実が希望。</p> <p>○一貫にすると中一ギャップの解消ということもあるが、現在は小学校から中学校にあがるタイミングで、小6までのいやな思いをリセットできる良さもある。</p> <p>○導入検討するにあたり、実際学校を運営している校長先生方の不安や期待を聞いてみたい。</p> <p>○教職員の負担が減るのか増えるのか知りたい。</p>	<p>○委員長をはじめ事務局のみなさんが、なんでも質問できる雰囲気を作ってくださいっていて、気楽に臨めた。ありがとうございます。</p>
委員	<p>○中学校区と地域の町会自治会の現在の区割りを変更するという事は義務教育、教育行政を超える、福生市全体の地域力、地域ネットワークの将来像をどうするかという総合計画的な分野にも及ぶと思う。</p> <p>○若干の校区の調整があったとして現中学校区を前提とする小中一貫校の在り方をどうするかという視点で考えている。</p> <p>○小中一貫型小中学校か義務教育学校の選択となると、義務教育学校。</p> <p>○施設形態の分類でいうと施設隣接型が望ましい。(※) ※私自身の文部省のモデル・中高一貫校の経験からの現時点での考えである。もちろん義務教育と中高一貫校では課題も異なってくるが、児童生徒が「一貫して教育を受けられる」という実感は同一敷地内または施設隣接型が勝っている。</p> <p>○校長先生からのご意見として児童生徒一人一人の学力等を見てあげられるという点を大事にできるという視点は同感である。障がい者支援の「個別カルテ」(母子手帳から成人の就労自立支援まで一貫したプログラム)のような仕組みづくり制度化も必要かと思う。</p>	<p>○まずは24ページにわたる資料をお示しいただき事務局に感謝申し上げます。</p> <p>○第一回の議事録の確認や付随意見にかなりの時間を割いておられる。</p> <p>○そのため当日に意見交換、確認をする必要がある事項に十分な時間が取れないのではないのでしょうか。「実現したい学校の姿」「今後の展望」のデザインが見えてこない。</p>
委員	<p>○「何のための一貫校」という疑問について、小中一貫校による教育が本市の教育、特に「学力」「自尊感情」などの向上に大きく寄与することを確認できた。</p> <p>○説明のあった武蔵村山市の「一貫校」の取組み事例は、本市の現状の学区割とは異なると考える。即ち、小中単校どうしの組み方は馴染まないと考えられる。それは「学校再編」の検討を要することであり、これらについては、後々の委員会での課題と考える。可能なら、小中一貫校の見学も願うところである。</p> <p>○保護者の多くは、我が子の学校が具体的にどう変わっていくのかが、一つの大事な視点かと思うので、前回同様その情報発信をお願いしたい。</p>	なし
委員	<p>○卒園していく子どもたちが就学し、どのように過ごしているのかを日頃から思い、幼稚園と小学校との連携、「つながり」の大切さを実感している立場として…小中一貫校の設置により、子どもたちの為に学校生活がより有意義に過ごせる場になることに期待している。</p> <p>先行実践地区における成果のデータを目にして、その思いは強くなったが、教員不足といわれる今、課題についてもデータ項目以上に、現場では色々なことや様々な思いがあるのでは…とも思っている。</p> <p>【課題(心配)に思うこと】</p> <p>○学区域 ・小中一貫校希望(またその反対)の場合、他学区域からの入学可能なのか。 ・入学可能としての定員人数等</p> <p>○保護者等への理解、説明</p> <p>○施設分離型としての児童、教員の関わり方</p> <p>○中学受験への対応(トータル9年間の指導計画として)</p> <p>○人間関係等の固定化</p>	<p>○今後の展望についての具体的な統計等を聞き、小中一貫校へのイメージが改めてより浮かび、素朴な疑問点や課題を含め…考えることやその思いが、実感として出てきたように思う。</p>
委員	<p>○私立の小中一貫校のお話を聞いた。5階建ての校舎で1、2階が小学校、3、4階が中学校、5階は特進クラス。小中一貫ならつながっているの、小学校から中学校へ上がるという不安が、ストレスにならないと思う。</p>	<p>○熱心な意見や感想の交換ができて、大変有意義であった。</p>

福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等

委員名	福生市での小中一貫校の設置に対する思いや考え、心配なこと、新たな視点等	本日の会の感想
委員	<p>○人口減少と施設コスト、教員方々の設置の観点からも小中一貫校の設置はメリットが多いと感じている。同じ敷地内等に 6 歳から 15 歳の 9 学年の生徒が交流できるということは、異なる年齢のコミュニケーションが図れ、上級生が下級生の手本になろうとする意識の向上が期待できる。また、中学への進学に対して不安を感じる生徒が減少し、中 1 ギャップの抑制につながる効果もあり、学習面でも長期スパンで行えるため小学校の学習で定着できなかった内容を中学で補うなど地域性に合った独自カリキュラムを組むことができると思う。</p> <p>○また、同じ生徒を長いスパンで見守れるのは、教職員方々の生徒に対する対応力の向上にもつながるのではと思う。</p> <p>○先行事例として、お話のあった、武蔵村山市の中高一貫校では、クラスを細分化して発達段階に応じた指導を行っているとお聞きした。</p> <p>○昭和、平成、令和と時代がめぐり、私達をとりまく環境は、大いに変化している中、時代に応じた多様性を身に着けるための教育環境として、いろいろな体験やチャレンジができる場を用意していくことも求められていくと思う。そのために、学校のみならず、地域をはじめとする周囲の協力、後押しは、とても重要であると考えます。</p> <p>○小中学校に進学した子どもが学業に専念できる環境を作るためにも、子どもと家庭を支援できる、行政、関係機関による、横断的な仕組みと合わせ、地域が共に伴走していけるような支援も必要だと思った。</p>	